

平成30年度学校アンケート結果

日頃は、本校教育にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。本年度の児童・保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。結果と次年度への改善策をご報告します。

(1) 基本的な生活習慣と学習習慣の育成

幼小中一貫教育で「進んであいさつする」を目標に、それぞれの校園で発達段階に合わせた取組を行ってきた。児童⑮では、86%が「あてはまる」と回答しており、昨年度より若干向上している。引き続きあいさつ運動に取り組んでいきたい。児童⑬、保護者⑩「身の回りの整理ができています」では、「あてはまる」は75.2%、77.8%で昨年度より低くなっている。また、保護者⑤の「学校の学習規律への取組」では、「あてはまる」は74.5%と昨年度より下がっており、授業中の学習態度や学習規律の改善を図る必要がある。学び合う授業づくりと家庭との協力関係を築いていきたい。

児童④、保護者③の「進んで運動し、体力作りをする」は、「あてはまる」が84.8%、84.9%と高く、縦割り班で朝の時間に遊ぶ「元気っ子タイム」や外遊びの奨励、業間持久走などを引き続き行っていく。

(2) 学力の向上

4月に行われた6年生「全国学力・学習状況調査」と4・5年生「県ステップアップテスト」では、それぞれの学年で県平均より若干高い結果が得られている。しかし、児童②、保護者①「漢字や計算の力がつく・学力定着への取組」では、「あてはまる」は児童86.7%、保護者77.6%で、昨年度より少し低い結果となっている。前述の「学習習慣」の課題が影響していると考えている。グループ学習で学び合う場面を増やしたり、学習の妨げになる持ち物をなくしたりして、学ぶ環境を整えていく。児童⑥、保護者⑥の「宿題をきちんとしている」には、91.3%、87.2%が「あてはまる」と回答しており、家庭のご協力を感じている。

児童⑭、保護者⑮「本や新聞などをよく読んでいる」では、61.7%、58.3%と低く、読書の習慣化が学力向上への課題の1つと考えている。家庭読書の日を設けたり、新聞に親しませる機会を増やしたりする。

(3) 規範意識と自己肯定感の育成

児童⑭、保護者⑫「きまりを守っている・守る意識が育っている」は、「あてはまる」は83.1%、87.5%で、昨年度より低くなっている。守れない児童が増えたことで、いくつかの学級が落ち着かない状態になったことが反省点である。早い段階から児童の話をよく聞き、信頼関係を築いていくことや「安全のためのきまり」「学習に集中するためのきまり」等に整理し、ご家庭に知らせてご協力いただき、全校的に意識向上を目指して取り組んでいく。

自己肯定感については、児童⑨「自分にはよいところがある」が、80.1%と昨年より高くなっている。これは、幼小中一貫教育のあいさつへの取組やいろいろな交流により、喜んでもらえる体験が増えたことが影響していると考えている。今後も「人の役に立つ喜び」が経験できる機会を大切にす。

(4) 一人一人に応じた指導・支援

児童①「授業をわかりやすく教えてくれる」では、「あてはまる」は91.6%あるが、児童⑱「相談にのってくれる」では81.9%に留まっている。また、保護者⑳「問題に素早く対応してくれる」は、「あてはまる」が67.7%と低い。教職員が、児童・保護者の困った状態に素早く対応できていない課題がある。家庭との連絡を増やし連携を深めていきたい。いじめ対策としては、年3回（7月・9月・12月）のいじめ調査を行い、聞き取り・指導・連絡の対応をとってきた。市教育委員会の指導のもと、より素早い対応を心がける。また、一人一人の特性に合わせて、教育相談や個別の指導等の支援体制を整えていく。

(5) その他

瀬戸中学校区で取り組んでいる幼小中一貫教育については、児童㉑、保護者㉒の「幼稚園や中学校との学習は楽しい・幼稚園や中学校と連携した教育の推進」での「あてはまる」が88.8%、85.9%と高く、今後も連携を継続しながら地域のよさを伝える教育を進める。

※ 添付の集計グラフは、HP（ホームページ）の「学校評価」にも載せます。